

天草市 新和地域まちづくり計画【概要版】

地域の概要

面積	人口	世帯数
55.22km ²	3,004人	1,338世帯

新和町は、天草下島の中東部に位置し、本市の中心市街地までは15分圏域にあります。中田港からはフェリーが運航され、鹿児島県長島町との間に海路も開かれています。

また、海・山・川などの豊かな自然資源を有し、一部は雲仙天草国立公園に含まれる美しい町です。特に、本地域の玄関口に群生する市の花“はまぼう”は、日本最大級の規模を誇ります。そして、四季を通じて自然体験が楽しめる「竜洞山」では、長崎県から鹿児島県を望める360°の大パノラマを満喫できます。さらに、竜洞山の麓では、「楊貴妃」伝説が言い伝えられ、本地域のシンボルとして様々な場面に登場しています。

【管内地区振興会】

- 小宮地地区振興会
- 大宮地地区振興会
- 中田地区振興会
- 宮南地区振興会
- 大多尾地区振興会
- 碓石地区振興会



地域の現状及び課題

本地域は、海・山・川など豊かな自然を有し、温暖な気候を利用して農業や漁業の1次産業が基幹産業となっていますが、人口減少が進むとともに高齢化率が45%を超え、後継者不足や集落機能の維持など多くの課題を抱えています。

このような状況を背景として、地域を活性化させる大きな要素となり得るのが、“産業の振興”です。今ある資源や人財に磨きをかけるとともにその利活用方法を検討し、地域の魅力を発信していくにあたり、以下のような特色・課題があります。

部門	特色	課題
産業経済	<ul style="list-style-type: none"> ○天草有数の田園地帯である ○温暖で海・山に面し、海産物や柑橘類が豊富 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業の衰退、後継者不足 ○荒廃農地の増加 ○有害鳥獣被害の増加
観光・文化	<ul style="list-style-type: none"> ○観光・文化資源が豊富 ○地域住民の人柄がよい ○郷土芸能が盛ん ○自然が豊か 	<ul style="list-style-type: none"> ○観光・文化資源の活用・PR不足 ○伝統芸能・祭りの後継者不足 ○豊かな自然の活用・PR不足 ○ツーリズム事業(民泊)の受入れ態勢
地域振興・教育	<ul style="list-style-type: none"> ○人と人の繋がりがあがる ○人情味があり協力的である ○小・中学校がある ○自然体験ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ○まちづくりに対する意識向上が不足 ○まちづくり事業への参加が一部の住民での取組となっている ○学校教育と地域の連携不足 ○子供が少ない ○自主サークルが少ない ○交流の場が少ない ○大学や専門学校がない
福祉・生活環境・防犯防災	<ul style="list-style-type: none"> ○福祉と医療を集約した福祉ゾーンがある ○高齢者が元気 ○犯罪が少なく住みやすい ○環境汚染もほとんどない 	<ul style="list-style-type: none"> ○高齢者の増加 ○高齢者の足となる交通手段が不便 ○元気な高齢者の生きがいづくり ○商店が少ない ○老朽化した空き家の増加 ○消防団員の人材確保

めざす地域の姿

人と地域が輝く共助のまち新和

新和地域の“豊かな自然”、“農林水産物”、“人財”など様々な資源（“宝”）を活用し、新たな特産品や観光メニューとして生まれ変わらせ、“豊かな生活”とともに“心の豊かさ”を追究する“まちづくり”を推進します。

具体的な行動計画

1 ゆたかな生活を創造するまちづくり

- 農林水産・商工・観光の連携による相互の活性化
- 担い手の育成と活動組織の強化
- 地元産品を活用した特産品（加工）開発及び販売の支援

2 地域の特性を生かすまちづくり

- 農家民泊の推進
新和民泊の会と協働し、民泊受入れ家庭を増加させ、修学旅行や個人旅行者の受入れを行い交流人口の増加を図る。
- 「世界遺産」・「ジオパーク」などに連動し、新和地域の魅力を情報発信
- ウォーキングコースの整備及び活用

3 誰もが住み続けたいと思えるようなまちづくり

- 地域の伝統・文化・祭りの継承
- 公共施設の管理
地区振興会や行政区など各種団体との協働により、道路、地域のグラウンドなどの公共施設管理を行う。
行政では行政区等でできない区域の管理や草刈機や動噴などの機械を購入し貸し出すなど省力化を図る。
- 新和町民が集える場の提供
スポーツ推進委員会と協働で、駅伝大会を開催し町民の交流を図る。
- 圏域を越えた地域間交流の推進
- 高齢者の生きがいづくり
敬老会を開催し、これまでの新和の歴史を築いてきた高齢者に敬意を表するとともに、生きがい（楽しみ）づくりのための情報を提供する。

4 地域住民自らが守り続けるまちづくり

- 高齢者の一人世帯の見守り推進
- 環境美化の推進
- 交通不便地区への巡回バス運行利用改善
- 交通安全。防犯に関する意識の高揚
関係団体と連携し、交通キャンペーンや防犯見守りを行う。
- 防災意識の高揚
各地区振興会や自主防災組織等と協働で防災訓練を実施する。また、自主防災組織を対象とした研修会を開催し、町民の防災に対する意識の高揚を図る。

地区振興会の見直し

人口減少に伴い地域活動の担い手も減少し、活動自体の低迷が懸念されます。このため、将来を見通しての地区振興会の組織の在り方を検討する。